

令和5年度  
普及活動計画

# 留萌農業をイノベーション 共に創ろう未来の農業



令和5年4月

留萌振興局  
留萌農業改良普及センター

# 目 次

	頁
I 地域の概要	1
II 留萌農業改良普及センターの普及活動方針	5
III 課題別普及活動計画	
1 地域課題一覧	7
2 広域推進事項一覧	9
IV 地域の現状と改善方向及び普及活動の地域課題	11
1 本所地域係の区域	11
(1) 地域の現状と改善方向	
(2) 普及活動の地域課題	
ア 地域係の担当活動区域（苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町）	
(ア) 現状と改善方向	
a 苫前町	13
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
b 羽幌町	17
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
c 初山別村	21
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
d 遠別町	25
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
e 天塩町	29
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
(イ) 普及活動の地域課題	
a 地域課題一覧	33
b 重点的に取り組む地域課題	36
(a) 推進計画	
(b) 実践計画	
2 南留萌支所の区域	39
(1) 地域の現状と改善方向	
(2) 普及活動の地域課題	
ア 地域係の担当活動区域（留萌市、増毛町、小平町）	
(ア) 現状と改善方向	
a 留萌市	41

(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
b 増毛町 .....	45
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
c 小平町 .....	49
(a) 農業・農村の現状	
(b) 改善方向	
(c) 具体的な改善対策	
(d) 振興構想図	
(i) 普及活動の地域課題	
a 地域課題一覧 .....	53
b 重点的に取り組む地域課題 .....	54
(a) 推進計画	
(b) 実践計画	
V 広域推進事項等	
1 担い手 .....	57
(1) 対象地域の現状	
(2) 改善方向と対策	
(3) 推進事項	
(4) 具体的推進計画	
2 情報・クリーン・有機 .....	61
(1) 対象地域の現状	
(2) 改善方向と対策	
(3) 推進事項	
(4) 具体的推進計画	
3 高付加価値化 .....	65
(1) 対象地域の現状	
(2) 改善方向と対策	
(3) 推進事項	
(4) 具体的推進計画	
VI 普及業務計画 .....	69
1 農作物生育状況調査	
2 病虫害発生予察	
3 試験展示ほ・実証ほ	
4 その他（土壌診断等）	
（参考）地域農業技術支援会議活動	
VII 業務分担 .....	73
1 活動体制	
2 担当項目	
(1) 作目項目	
(2) 横断項目	



### 3 気象条件

日本海を北上する対馬海流の影響により、同緯度の他の地域に比べ温暖だが、南北に細長い地域のため南部と北部では気温はかなり異なる。

年平均気温は、北部は6～7℃、中部は7～8℃、南部は8～9℃となっており、このことが北部では酪農、中南部では稲作、果樹、野菜、肉牛等、多様な農業形態を生む要因となっている。

また、対馬海流の北上する日本海に面し、後背部が山岳地帯となっていることから、前線や台風などの影響を受けて、7月中旬以降から冬にかけては降水量が多くなるという特徴が見られる。冬期間の積雪は平均1m前後だが、内陸部では2m前後にも達する地域もあり、11月下旬から4月中旬から下旬まで根雪の期間が続く。

また留萌管内は強風地帯として有名で、特に冬期間に北西の季節風が強く、留萌市の平均風速は5m/s、瞬間最大風速は30m/sに達することがたびたびある。

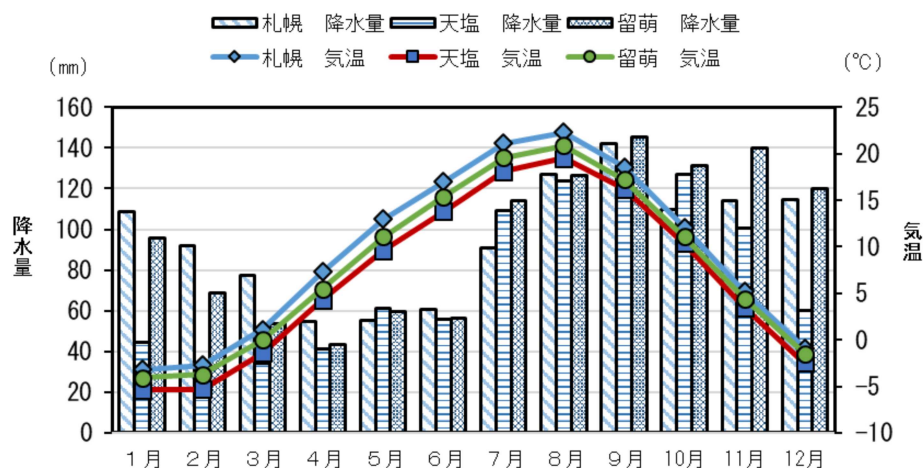


図3 気温と降水量の推移（気象庁：平年値）

### 4 農業構造

#### (1) 土壌条件

土壌分布は南北で異なり北部の天塩町の耕地土壌は、天塩川流域や宗谷管内に続く広大なサロベツ原野に分布する泥炭土で大部分が占められている。これに対して、遠別町以南は中小の河川沿いに平坦地が形成されており、主に細粒質褐色低地土・灰色低地土が分布している。

#### (2) 経営体数と就業構造

令和2年（農業センサス）では744戸と1,000戸を割り込み、年々減少傾向にある。そのため、1戸あたり経営面積が増加する傾向にあり、経営規模の拡大が進んでいる。新規就農者はここ数年8名前後で推移している。平成26年度はUターン就農が13名と多い年もあるが、年次変動が大きい(図5)。

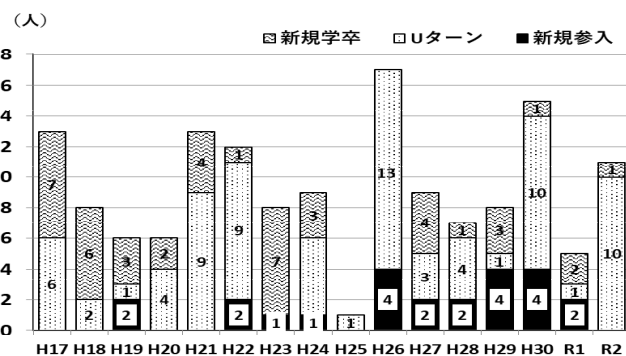
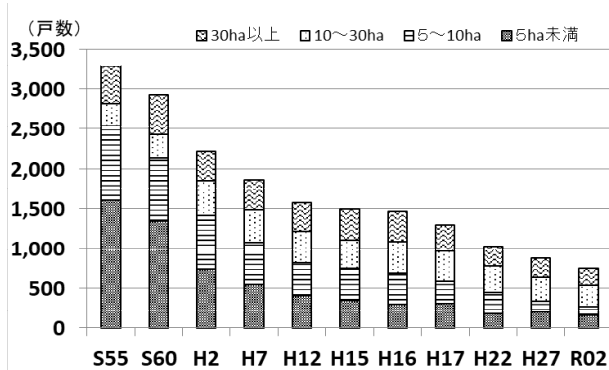


図4 規模別経営体割合の推移（H22より幌延町除く） 図5 新規就農者の推移（留萌振興局新規就農者実態調査）

### (3) 耕地面積の推移

農家戸数の減少に伴い農地の借入による経営面積拡大が進んでいたが、平成27年は貸付面積が増加に転じて借入耕地面積が平成22年時の前回調査を下回り、規模拡大傾向がやや鈍化している傾向が伺える(図6)。

総農家戸数は各市町村100戸前後で、1戸当たりの耕作面積は、苫前町、遠別町、天塩町で30haを超えるが、留萌市、増毛町など南部地域は10ha以下の経営規模が多くあり、農地の集積はあまり進んでいない(図7)。

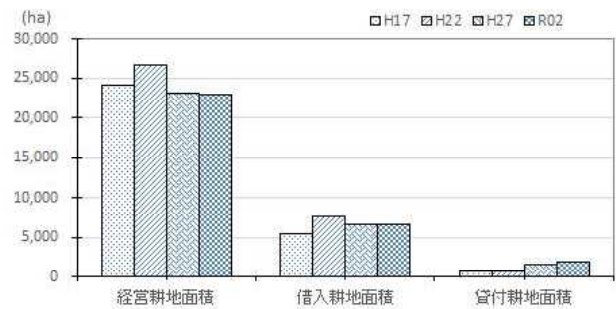


図6 耕地面積の推移(農業センサス)

### (4) 年齢構成

農家戸数の減少は歯止めがかからない状況にある。平成15年には1,500戸を割り込んで昭和60年の農家戸数から半減、その後も減少は続き、兼業農家の離農が農家戸数の減少へと直結している。

今後も高齢化の進展などに伴い、減少傾向は続くことが予想され、地域集落の存亡や地域経済に及ぼす影響が懸念される。

近年、農家戸数の減少は鈍化傾向にあるが、進行する高齢化に伴い就業人口は年々減少し、令和2年の販売農家における就業人口は、1,368人となっていて、農業就業者の内60歳以上の占める割合が50%以上になっている(図8)。さらに、65歳以上割合では約44%と、全道の40%を上回っており、農業経営者の高齢化が進んでいる。

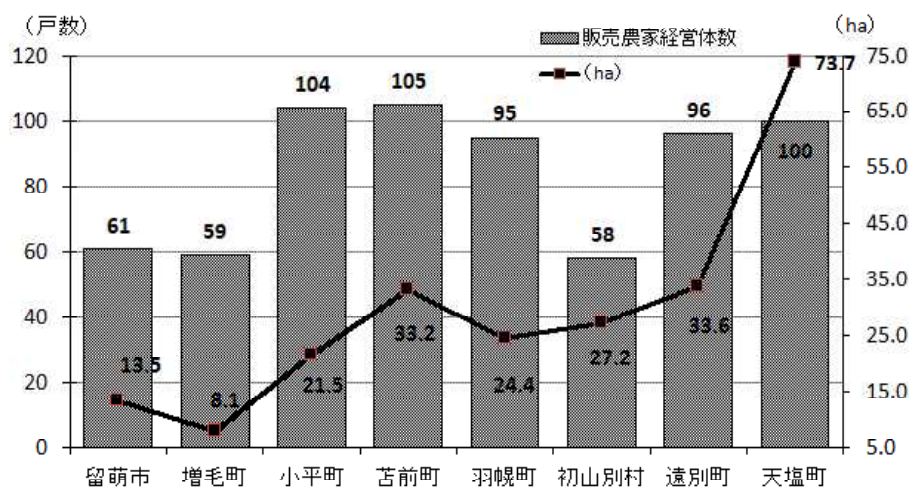


図7 市町村別総農家戸数と1戸あたり耕作面積(農業センサス2020)

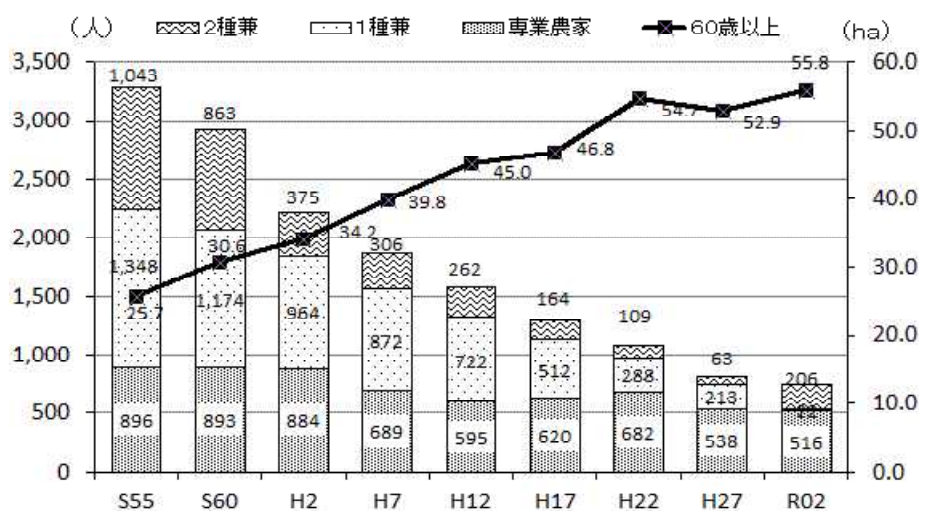


図8 農家戸数と60歳以上就業比率の推移(農業センサス)

(5) 農業生産

管内農業産出額は令和元年度は175億円となり、畜産部門が約6割、耕種部門約4割の構成比となっている。

北部地域を中心とした酪農は、経営規模の拡大が進み、道内有数の酪農郷を形成している。

中南部の稲作は我が国の水稲生産の北限であるが、道内有数の良質米産地として高い評価を得ている。また、野菜生産でも北限の地域であり、その気候風土を活かし、クリーンな野菜を生産し出荷している。

留萌南部の増毛町では、おうとう、りんご、なし、ぶどう等が生産され、道内有数の果樹産地で北限に位置し、観光果樹園、直売等が盛んである。

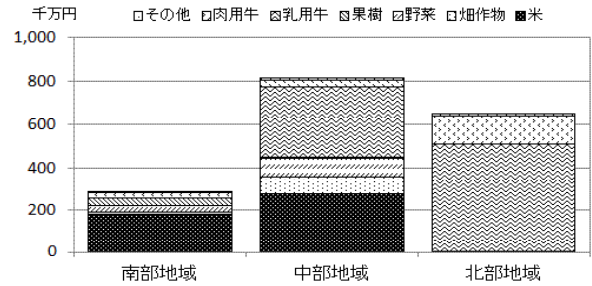


図9 管内の地域別農業算出額 (R02)

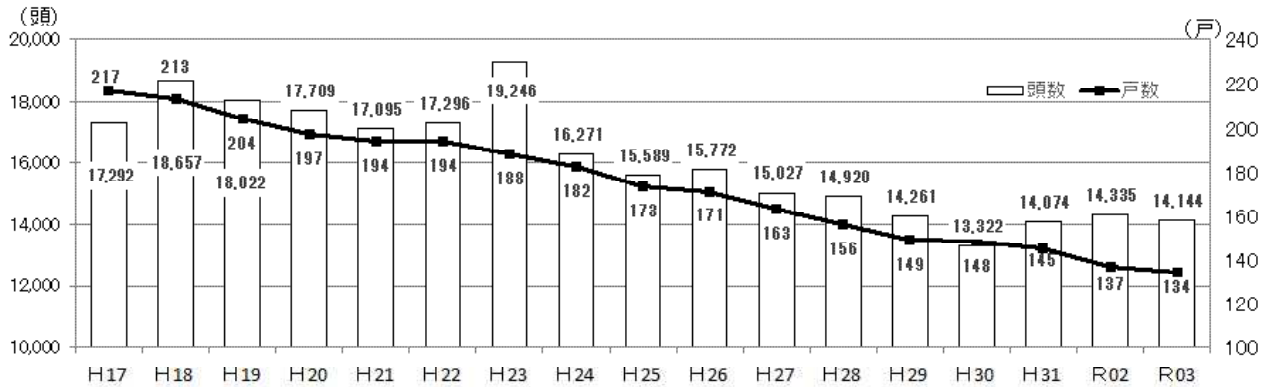


図10 乳用牛の飼養頭数及び戸数の推移 (畜産統計年報)

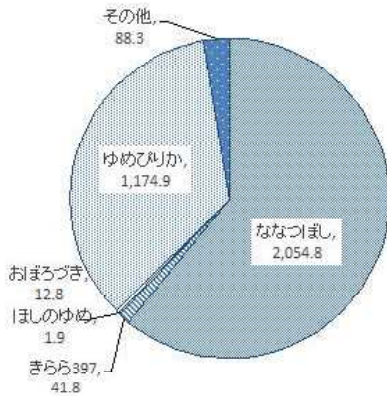


図11 水稲 (うるち米) 品種別栽培面積 (単位: ha・R02)

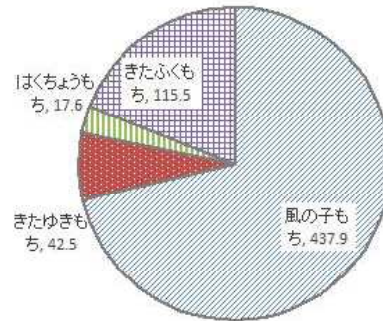


図12 水稲 (もち米) 品種別栽培面積 (単位: ha・R02)

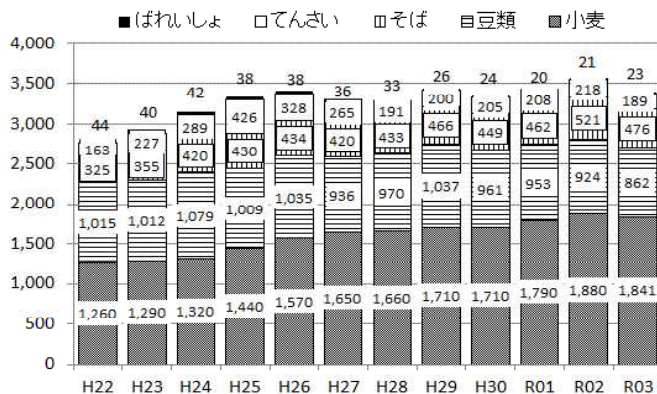


図13 主要畑作物の作付面積推移 (北海道農林水産統計年報)

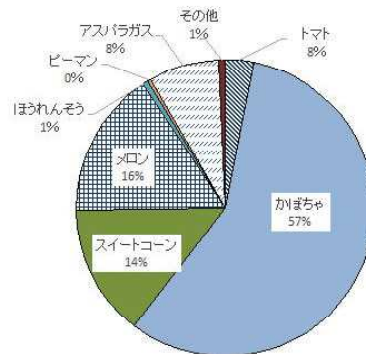


図14 主要野菜の作付面積割合 (単位: %・R02)

## II 留萌農業改良普及センターの普及活動方針

### 1 普及推進方向と普及活動

留萌管内の農業・農村を巡る状況は国際的な農業情勢の混迷状況が続く中、国内では新たな米政策や水田活用の直接支払い交付金制度の創設など、取り巻く環境が大きく変化している。また、急速に進む農家戸数の減少や農業従事者の高齢化など農業生産構造の脆弱化、過疎化による集落機能低下など地域農業は様々な課題を抱え、さらに国際紛争の影響によるエネルギー価格の高騰、資材価格や輸入粗飼料価格の高騰は農家経営を圧迫しており、厳しい状況が続いている。

しかし、国民の「食の安全・安心」への関心がこれまでになく高まっており、農業の果たす役割は、地域資源を活かして消費者へ安全・安心な農畜産物を安定的に供給すると共に持続可能で環境に配慮した生産や多様な人材が活躍できる環境整備などで生産性の高い農業の展開が求められる。

留萌管内は日本海に沿って南北に細長く、気候が北と南で異なることから、北部地域には酪農・肉牛、中部地域に稲作・畑作・野菜、南部地域に稲作・果樹等を主体に多様な農業が営まれている。

近年は農業経営が厳しさを増す環境下で、農業後継者の減少、さらには農業者の高齢化と離農が進行し、労働力不足が地域の大きな課題となっている。

農業改良普及センターでは「第6期北海道農業・農村振興推進計画」で示されている姿を踏まえ、さらに環境・経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、より環境に配慮した取り組みを推進していく。一方、留萌管内4農協が令和3年2月に合併し留萌管内1農協となった。留萌農業改良普及センターはこれらを踏まえ、地域の特性に応じた取り組みを支援し、農家の所得向上と地域農業が持続的に発展するよう関係機関・団体とこれまで以上に連携して普及活動を展開する。

#### 【普及活動の基本的な取組】

- (1) 持続可能で生産性の高い農業・農村の確立
- (2) 多様な人材が活躍する農業・農村の確立
- (3) 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立
- (4) 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

### 2 普及活動の重点化と提案型の普及活動

#### (1) 地域ニーズに対応した課題の絞り込み

地域農業者から求められる様々な営農相談や市町村、農協等地域の関係機関からの協力依頼など地域農業振興の課題等について、重要度や緊急度、課題間の相互関連の把握に努め、課題の絞り込みを図る。

#### (2) 課題の重点化と提案型の普及活動

地域農業者や関係機関との合意形成と役割分担を踏まえ、地域への波及効果を考慮しつつ、優先度の高い課題について重点的な取り組みを推進するとともに、提案型の普及活動を展開する。

#### (3) 重点普及課題の解決と地域への波及

重点普及課題の設定と具体的な推進事項による課題解決を重点対象地区を拠点として推進するとともに、関係機関や団体と連携して地域への波及に努める。

#### (4) 農業革新支援専門員の普及活動

協同農業普及事業実施に関する方針並びに協同農業普及事業実施要領に基づき、農業改良普及センターに配置する農業革新支援専門員は、主任普及指導員が担うものとし、その業務に当たっては、各農畜試技術普及室、本庁技術普及課等と連携しながら対応する。

#### (5) 地域農業技術支援会議、技術体系化チームと連携



### 3 具体的な活動内容

#### (1) 持続可能で生産性の高い農業・農村の確立

- ア 労働力不足を補い、持続可能で生産性の高い農業の展開のため、暖和と適応を意識した栽培技術の見直しやスマート農業技術などを活用した省力化技術の導入を進める。
- イ 基盤整備後の農産物の生産性安定のため試験研究機関や農地整備事業部局との連携を一層強化する。
- ウ 基幹作物である水稲の作付面積の維持、収量・品質の安定のため基本技術の実施とともに、労働力不足に対応した高密度は種栽培・直播栽培やドローンによる防除など地域で実践できる省力技術の確立と取組拡大を推進し、稲わらの適正処理など脱炭素に向けた取り組みを進める。
- エ 畑作物の生産安定に向けて、透排水性の改善や、地域に適応した輪作、緑肥などを導入した土づくりを推進する。
- オ 園芸作物では、労働力が大きく減少する中で、省力技術の導入又は地域での開発を支援し、安全・安心で高品質な生産物の供給を生産組織活動を通して推進する。
- カ 酪農・肉牛経営では、家畜排せつ物の適正管理と地域で出される稲わら、麦稈や農産物加工等から出される副産物の有効利用等、耕畜連携による有機質循環システムづくりを推進する。

#### (2) 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ア 新規就農者の確保と育成のため、J Aや市町村等、指導農業士・農業士会、農業法人等と連携して就農希望者の受入制度及び研修制度の整備と運営について支援する。  
また、若手農業者の学ぶ場として農業基礎ゼミナールを開催し、青年農業者や女性農業者の学習活動を支援し、未来の地域農業のリーダーとなるよう育成を行う。
- イ 各地域の4 Hクラブなどの青年農業者グループや女性農業者グループの活動の充実を図り、農業者の主体的な活動を支援する。
- ウ 地域の農地の受け皿と新規参入者の受け入れや農業の担い手の育成等、地域農業の維持に対する役割が期待される農業法人の経営の安定に向けて支援する。
- エ 地元農業高校と連携し、管内への就農等に向けた取り組みを進める。

#### (3) 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ア 果樹や農畜産物の加工・販売指向農家と地元の加工販売会社とのマッチング支援を行う。また、地域の資源（人・物・制度）の連携による特産品開発などの支援を行う。
- イ 消費者の期待に応える安全・安心な食料生産に向け、農薬の適正使用や農薬や硝酸態窒素など環境負荷物質の可能な限り少ない使用を推進し、引き続きYES!cleanや特別栽培農産物・有機農産物生産の取り組みを支援する。
- ウ 農業生産段階におけるG A Pの実践や畜産農場における農場H A C C Pの実践に対する支援を行う。

#### (4) 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ア 生産、加工等関連産業の連携と地域資源を活かした地域の特産品の開発など新たな取り組みに対して支援を行う。
- イ 地元の農業や農村、正しい食生活の理解を深めるため、小学生等の食育を支援する。また、地域特産品を継承するための機会を作り、技術の継承も支援する。
- ウ 農業への理解を深めるため農業体験受け入れや、消費者交流やグリーンツーリズム等へ向けた環境づくりに対して支援を行う。

### Ⅲ 課題別普及活動計画

#### 1 地域課題一覧

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間	頁
1	青年農業者の育成	積極的な活動の推進	遠別町	遠別町4 Hクラブ (11名)	水沼普指 杉村専普 道端普職	R3～R5	33
		自主的な活動の定着	羽幌町 初山別村	羽幌町・ 初山別村 ピンクフ アイブ (5名)	田中普指 西野普職	R3～R5	33
2	生産性の高い畜産の確立	個戸の課題に対応した酪農技術支援	苫前町	苫前町酪農家 (16戸)	工藤主査 杉村専普 道端普職	R5～R6	33
3	酪農危機に対応する酪農経営の育成	自給飼料を有効活用した酪農経営支援	天塩町	天塩町酪農家 (9戸)	杉村専普 工藤主査	R5～R6	33
4	〇ゆとりある豊かな地域農業の確立	水稲省力栽培技術の向上  畑作物の安定生産による収益性向上  機械のコスト低減と生産性向上	羽幌町	羽幌町築別2地域 (7戸)	高橋係長 千石主査 工藤主査 杉村専普 水沼普指 田中普指 西野普職 道端普職 武田次長	R3～R7	36

課題 番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間	頁
5	水稲直播栽培における技術向上支援	基肥銘柄に合わせた適期追肥の実施	小平町 増毛町	南るもい 輪作研究会水稲直播栽培者 (8戸)	荒木普指 神野係長	R5	53
6	○次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立	水稲安定生産技術の確立  地域農業を考える会(別荘クラブ)の活動支援	増毛町	増毛町 別荘 (10戸)	神野係長 小島専普 荒木普指 秋松主査 近藤主査 伊東支所長	R3~R7	54

## 2 広域推進事項一覧

業務区分	推進事項名 (関連事業)	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	頁
担い手	地域農業・農村を支える多様な担い手の育成	管内全市町村	留萌4Hクラブ 連絡協議会  るもい農業ゼミ ナール受講生他 若手農業者  若手女性農業者  管内農業法人	田中主査 橋本主任 高橋係長 千石主査 工藤主査 杉村専普 水沼普指 田中普指 神野係長 秋松主査 荒木普指	57
情報・ クリーン・ 有機	情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信	管内全市町村	留萌振興局管内	中村主査 釣谷主任 杉村専普 水沼普指 近藤主査 荒木普指	61
	安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進	管内全市町村	留萌振興局管内	中村主査 釣谷主任 水沼普指 近藤主査	61
高付加 価値化	農商工連携による農畜産物の生産販売の振興	管内全市町村	高付加価値化グループ 高付加価値化志向者	安田主査 釣谷主任 杉村専普 近藤主査 小島専普	65

